第 2015-06 号

恵みと真理のニュース

2015 年 2 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

イエス様を信じることが真の誇りであり　イエス様を仕える事ができて限りなく幸せです。

私の家庭はイエス様を信じない不信の家庭で母方の家庭は篤実なキリスト教でした。私は母方の家に行くとみんな集まって神様に礼拝を捧げ祈り賛美する姿がうらやましく見えました。また、とても大変な事があっても落胆しなく互いに信仰と希望の話をする事が不思議でした。.私も教会に行きたかったですが家庭の雰囲気では絶対に私一人でイエス様を信じ礼拝を捧げる事が出来ません。私の心の中ではいつかからイエス様がおられましたが家庭の雰囲気と忙しいと言い訳をしてイエス様のところに行かなくて世のことだけ熱心でした。どうしたらお金を設けて成功し名誉を得て体がもっと楽に生きるのか考えこれを成し遂げるため全力を尽くしました。

小さい事業をしていましたがある日、家庭で憂患が重なって来ました。私のすぐ下の妹が偶像崇拝して巫女になりました。そして母も急に病で倒れました。妹は母が治るためには祭祀をしなければならないとしました。私は夜毎悪夢にうなされました。一晩中眠れなくても仕事を熱心にしなければならなかったです。そうして精神と肉体が疲れてしまい生きる希望もなくなった時に今まで私の事業場に来て伝道していた伝導士をついて教会に行きました。両手を上げ神様の前で行き悔い改める涙を流しました。神様が私をどう知り私のための説教を一生忘れません。当会長の牧師はルカによる福音書15章に出てくるどら息子を受け入れる比喩で悔い改める罪人を赦し豊かな祝福を与える神様の御言葉で私を慰め祝福してくださいました。戻って来たどら息子である私を暖かい愛で抱いてくださり流れる涙を拭いてくださいました。イエス様を救い主として受け入れたその日から私の人生が変りました。世の欲望を捨て私の今日と将来のことを主に委ね、熱心に礼拝を捧げ御言葉と祈りの中心の生活をしました。やがて不眠症が解放されました。平安に寝るようになりました。主は私と共におられ、私を強くしてくださることを感じました。神様は心の悩みと苦しみの変わりに平安と喜びに満たされ、神癒の恵みも与えてくださいました。

病院で“c型肝炎ウィルス”診断を受けて一ヶ月間朝ことに全能な愛と哀れむ豊かな神様に祈りました。そして再検診を受けた結果、医師から以上がないと言われました。誤診でしだったと通報受けました。神様が治療してくださった事を確信して感謝を捧げました。それだけでなく神様は交通事故で大きく怪我をして後遺症で痛かった腰も嘘のように治りました。

振り替えてみるとイエス様を信じなく人生の道をさ迷って世月を無為に過ごして後悔しました。イエス様を信じ救われ主を仕えるようになったことに感謝の涙を流しました。今日“私はイエスキリストを信じます。”と誇りでイエス様を仕えることに幸せです。どんな試練と迫害があってもイエス様によって喜び感謝します。今日も礼拝を捧げる時、当会長牧師を通して命の御言葉で私の魂が豊かになりました。また、祈りをする時にも聖霊で満たされるようにしてくださって神様の恵みに感謝します。私が体験した神様の恵みを多くの人々と分かち合い伝えるためこれから福音伝道をはじめ主の事に最善を尽くします。“命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう。”（詩篇23：６）

［信仰コラム］　神様の責めと懲戒

″すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。″(ヨハネの黙示録3:19)

責めを聞いたり、懲戒を受けるのが好きな人はいません。 それでも責めや懲戒処分を無用、無益なことだと言う人はいないのです。 攻め方や懲戒処分の反応と結果は、誰が、誰に、なぜ、どうするかに関連して現れるようになります。 聖書には人生を罵って懲戒する神様が啓示されています。 私たちが神様の責めや懲戒について完全な知識と理解を持つことが必ず必要です。

第一に、本文には神様が咎めて懲戒する対象が誰かを明らかにしています。 ″私が愛する者を責める、処分するところだが″しました。

神様の愛する者は神の選んだことを着た者であり、神様の子供になった者を言います。 イエス・キリストを信じて迎接する者は救いを得ることとともに、神様の子供になります。 そして、神様の特別な関心の対象になって神様の愛する者がなったために誤った道を行くと神様の責めと懲戒を受けることになることです。これは子どもに対する父親の愛の積極的な表現です。

神様は様々な経路と方法で叱責し、懲戒しています。直接的にする場合と間接的にする場合があります。特に神様は教会を通じて勧懲しています。 教会は聖徒をために咎めて懲戒する使命と責任を与えられました。 その原則も聖書に提示されています。 神様がどのような経路と方法で叱責し、懲戒しられるにしても決まったその動機と目的はただ愛にいることを私たちが念頭に置かなければなりません。

第二に、神様の責めと懲戒を受ける時に私たちがどのような態度をとるべきかを調べてみましょう。 ″熱心になって悔い改めなさい″としました。

’責め’は過ちを聞いて叱りつけるて諭して注意させることです。 ’懲戒’は叱責が具体的な形で現れる行為です。 責めを受ける時取る統合した態度は耳を傾けて聞くことです。 耳を傾けていない無関心な態度より悪いことはありません。 直ちに決定的に悔いて、持続的に熱心を払わなければなりません。 悔悟はするやらないやら形だけ出してはいけません。 ダビデはバッセパ事件で預言者ナサンの責めを受けることになると、直ちに犯罪を自認して、真剣で情熱的に悔悟する姿勢を見せました。(詩篇　6:6)、そして悔悟に合併した実を結ばなければなりません。 直すことがない悔い改め、言葉だけの悔悟は悔悟がありません。

第三に、神様の責めと懲戒を受ける時に悔い改めに合併した実を結ぶ人は福があります。

完全無欠な人はいません。 誰でも間違いがあって、試行錯誤を通じて学ぶようになります。 信仰の先祖であるアブラハムもミスがあり、失敗の苦杯を飲みました。 彼が神様の言葉を追ってカナンの土地に入るや否や、飢饉が近づいて来ました。 彼が神様の言葉を追ってきたから、もうまた神様お話に耳を傾けなければならなかったが、彼は言葉がなかったにもかかわらずエジプトで下りました。 そして、妻サラをすぐに王に奪われる見えすいました。 神様が迅速に介入して摂理して腹は免れたが、アブラハムは王に責めを受けました。 実際には神様が彼を叱責したものです。その後彼はカナンの土地に戻ってきたが、神様の時を待たずに妻の言葉を聞いてハガルを通じて子どもを生む失策を犯しました。 これによって家庭にごたごたが生じて、困惑したことが起き、結局、ハガルとイシュマエルを出したまま追いかけなければならなりません。 このようにミスや失敗は誰にでもあります。

ミスや失敗を恐れるのではなく、神様の責めと懲戒をけいこつにて奉り、悔い改めない者がいい恐れなければなりません。 懲戒受けた時、これを疎かに考えず叱責を受ける時、落胆してはいけません。(ヘブライ人への手紙　12:5)神様の責めと懲戒を喜んで受け入れ、暮らしの態度を変えながら徹底的に悔悟する人は神様の認定と愛をさらに受けることになります。 皆さんは神様の責めと懲戒を経ること石と思わずに、乗り越えて突破する踏み台にしになって下さい。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神様のお言葉に対する適当な態度

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

神様が存在するか? 宇宙万物はどのようにして存在するようになったのか? 人類歴史には終末があるか? 人が死ねばどうなるか? 天国と地獄が存在したら誰が天国に入るようになるか? こんな質問に対する答は人がいくら研究しても分かることができないです。 視力があっても光がなければ事物の形態と色をわからないです。 このように知覚と理性があっても神様の啓示がなければ前で言及した質問に対する答をわからないです。 神様は多くの形で人生に啓示しています。 神様がおっしゃったお言葉は予言者と使徒を通じて聖書に記録されました。 聖子の神様が世の中に人でいらっしゃって親しくおっしゃいました。 ヘブル人への手紙, 1 章に記録されるのを “神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。”(ヘブル人への手紙, 1:1,2) しました。 神様のお言葉は神様が人生に与えられた口約束です。 神様が約束したお言葉はすべての人に自分が分かっても分からなくても、願っても願わなくても彼の生に大きくて決定的な影響を及ぼします。 だから人生の成功と失敗、幸せと不幸は神様のお言葉に対する各人の態度如何によっています。 今日は神様のお言葉に対して私たちが持たなければならない適当な態度に関してよく見ます。

第一、皆さんは聖書に記録された神様のお言葉は変わりがないし そのお言葉どおりすべて成り立つという信仰を確固に持たなければなりません。

イエス様が親しくおっしゃるのを “天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない”(マタイによる福音書 24:35) しました。 神様は彼が作った万物に自然法則をくださいました。 自然法則は変わらないです。 誰でも自然法則を無視して行動すればそれによる苦痛と損失という対価を支払うようになるでしょう。 神様の口約束は神様が決めた法則です。 排撃して無視すると言ってもそのお言葉の影響力と支配力は損傷されないです。 排撃して無視する行動をする人はそれによる懲罰を自ら招くようになるでしょう。これに対する例が聖書に記録されています。
使徒パウロが三次の伝導の旅行を終えてエルサレムを訪問した時彼を憎むユダヤ人に告訴されて裁判を受けました。 ユダヤ人を意識した総督がパウロをずっと拘留しておくのでパウロはローマ皇帝の裁判を受けると上訴しました。 そしてパウロはローマ軍隊の指揮官である百卒長の引率の下にローマに行くようになりました。 北東の風がたくさん吹く季節であるから航海が難しかったです。 パウロ連中の乗った船がグブロ島の美港にかろうじて停泊しました。 船長と船主がブェニックスに行くことに決心したがパウロが破船すると引き止めました。
百卒長は船長と船主の言葉を信じて出港を承諾しました。 初めには南風がまろやかに吹いたがいくら行くことができなくて “ユラグル” という狂風が迫りました。 船員は救命艇に付いて上で引き上げて太い ロープで船体を縛り付けました。 多くの日の間日と星が見えなくて大きい風浪がそのままあって救いの可能性がすべて消えました。
その時パウロが人々の中に立って言いました。 “私が皆さんに勧めたらこれから安心しなさい。 元気を出しなさい。舟が失われるだけで、あなたがたの中で生命を失うものは、ひとりもいないであろう。 昨夜、わたしが仕え、また拝んでいる神からの御使が、わたしのそばに立って言った、パウロよ、恐れるな。あなたは必ずカイザルの前に立たなければならない。たしかに神は、あなたと同船の者を、ことごとくあなたに賜わっている』。だから、皆さん、元気を出しなさい。万事はわたしに告げられたとおりに成って行くと、わたしは、神かけて信じている安心しなさい。 私は私におっしゃったそのままになると神様を信じる。” これは神様のみ使いを通じて受けた神様の約束でした。 神様の約束は不変なのでそのお話どおりなりました。 神様がおっしゃるのを “その通り” になるという信仰が真のクリスチャン信仰です。 クリスチャンは死ねばその霊魂が天国に入るようになります。将来復活するようになります。 永遠に天国で住みます。 善良で忠誠されるように主を仕えた人は賞と褒めを受けるようになります。これは神様のお言葉どおりなるのです。 神様のお言葉どおりなることを信じる人は予測可能な人生を生きて行くことができます。 神様は全能で相変わらずなので聖書に記録された神様のお言葉は変わりがないしすべて成り立ちます。

第二、皆さんは聖書に記録された神様のお言葉から脱しないように気を付けなければなりません。

コリント人への第一の手紙 4 章 6 節に それはあなたがたが、わたしたちを例にとって、「しるされている定めを越えない」 クリスチャンを示して “神様のお言葉の中で住む人” と定義することができます。 聖書には神様が決めたお言葉の限界を移った不幸な事件がたくさん記録されています。 人間が原罪を持って出生するようになったことは人類の先祖が神様が決めたお言葉の限界を移った結果です 神様は地獄の刑罰を受けるようになる人生を救われる救世主を世の中に送るために一人を選びました。 その人がアブラハムです。 アブラハムの生涯で私たちは立派な模範を見つけることができます。 アブラハムは神様の約束したお言葉の中で住みました。 彼は神様のお言葉の外に移らなかったです。 偶像崇拝がはびこった人々間に暮しても彼は偶像を仕えなかったです。 ただエホバ神様だけ仕えました。 そして独り子イサクを播祭に差し上げなさいという神様の命令に従順しました。 そういう従順には神様がもう約束したお言葉に対する信仰が内包されていました。
イスラエル子孫はエジプトを出発してから 40 年が経って初めてヨシュアとガナアン地で進入しました。 彼らが占領しなければならない始めて城はエリコでした。 エホバがヨシュアにエリコの攻略方法を指示しました。イスラエルの軍事と祭司と民がエリコの周囲を毎日一回ずつ六日の間回って七番目日には七回回って祭司がラッパを長く吹けば民が大きく叫ぶのでした。 そんなにすればその城が崩れるとおっしゃいました。 ヨシュアが民に神様のお言葉を伝達したし民の皆そのお言葉中で行いました。 遂にエリコはイスラエル民の手元に入って来ました。 予言者と使徒が聖霊の感動の心を受けて神様に受けて記録したお言葉は神様が私たちの幸せのために決めた限界を知らせてくださったのです。 皆さんはその限界を嬉しく受けて差し上げて記録された神様のお言葉の中にだけ泊まっていてください。
“記録したお言葉” 外に越えて行くようになる理由が何なのかよく見ます。 ニムロッの輩らは地に広く広がってその中で盛んになりなさいという神様のお言葉の外に出ました。 彼らはシナル平地に集まって城と塔を積んで散らばれるのを免れようと思いました。 彼らがお言葉の外に越えて行った理由が何ですか? 人間の知恵と技術と能力を誇示しようと思う驕慢のためでした。 エリコにあるすべての品物は神様の所有であるから手をつけないと神様がおっしゃいました。 ところでアガンがシナル産コートと金を盗んで自分の帳幕に隠しました。 彼が神様のお言葉の外に越えて行った理由は貪欲の心のためでした。 ペリシテびととイスラエルのけんかでペリシテびとが神様の契約の箱を奪いました。 その契約の箱をダゴン神がある所においたらダゴン神が契約の箱の前に倒れてその頭と二つの手首が切れました。 また毒種の災いが臨みました。 すると彼らが契約の箱をイスラエル人々の城邑であるベッセメスに行くようにしました。 ベッセメス人々は好奇心で契約の箱をのぞき見ました。 すると神様の懲罰が臨んで多くの人が死にました。 神様の契約の箱をのぞき見ることは厳格に禁止されたしこれを破る者には死が宣告されていました。 (民 4:15 - 20) ベッセメス人々は神様のお言葉の外に移ったから懲罰を受けました。
聖書お言葉を自分が作った神学や思想を立証するための手段にしようと思えば記録されたお言葉の外に越えて行くようになります。 聖書にはメシアが罪人を救いするために世の中へいらっしゃってあがないの死を死んで復活して天に昇ることが予言されました。 世の中にまたいらっしゃる時に世の中の国を審判なさって聖徒を復活させてイエス様が親しく治める国で永遠に福楽をすることが予言されました。 しかしユダヤ人はイスラエル国の光栄を回復させる政治的なメシヤを切に望んでから聖書に明らかに記録されている苦難を受けるメシヤに対しては目を閉じてしまいました 自分が願う言葉を聞くための目的だけで聖書を読むことは誤った態度です。

神様がおっしゃるお言葉を聴くためには聖書を詳しく考えなければなりません。
人生の成功と失敗、幸せと不幸は神様のお言葉に対する各人の態度によっています。聖徒皆さん、記録されたお言葉はそのまますべて成り立つという信仰を確固に持ってください。 そしていつも記録されたお言葉の中にだけ泊まっていてください。